

2019年度

さくらんぼ 11月号

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会

舞鶴子ども発達支援施設「さくらんぼ園」(Tel.64-5798・FAX62-9171)

秋の夜長、親子で読書を

9月の初めに稲刈りをしました。一月後、その田んぼに行ってみると、切り株のすき間から新たに穂が出ていました。背丈を測ると40センチもありました。もう一回お米が取れそうでした。これは、毎年秋の田んぼに見られる光景です。これから寒くなるので、実際には実ることなく枯れますが、植物の、生命を維持する力（子孫を残す力）は、たいしたもんだと改めて感じました。



さて、「読書の秋」という言葉があります。秋は、涼しく過ごしやすく、夜も長いので、読書をするには適した季節だということです。毎年、10月27日から11月9日までの2週間は、「読書週間」です。これに合わせ、小学校では、『親子読書』の取組をよくします。例えば、「テレビを消して、10分間、親子で本を読もう。」という取組です。一冊の本を親子で読んでもいいし、それぞれが別々の本を読んでもいいというものです。これを機に、本に親しむ家庭が増えることを願って行っている取組です。

読書をすることは、テレビを観ることよりもいいことだとは、一概には言えません。それぞれによさがあるからです。読書のいいところは、言葉や絵を通して、知識を増やせることです。また、身につけた知識を人とのやりとりに活用できることです。もし、その本が物語であるなら、物語の世界に入ること、想像力を働かせる力も養われます。一つのことに集中する力をつけることにも役立ちます。これらは、一般的に言われている読書のいいところです。私は、読書の一番いいところは、直接的ではないけれど、他に働きかける、能動的なところだと思います。自ら学ぶ力は、受け身ではなく、能動的であればあるほど、身につけていくからです。これは、受動的なテレビでは期待できません。

10月の母親教室は、水嶋先生にたくさんの絵本の紹介をしていただきました。その中には、『みんなうんち』や『11ぴきのねこシリーズ』など、20年以上も前に自分の子どもが好んで読んでいた本もありました。子どもを引きつける本は、年月を経ても変わらないのかも知れません。

さくらんぼ園の子どもたちには、まず、絵本に興味をもつようになってほしいと思います。ご家庭では、毎日、何かに追われているような忙しさがあ、のんきに、「秋の夜長」とは言っておられないでしょうが、小学校でも取り組んでいる『親子読書』にぜひ取り組んでほしいと思います。絵本の読み聞かせです。「この本で、文字を教えよう。」とか、「物の名前を覚えさせよう。」という目的で本を開くのではなく、本の世界を楽しむことを目的にしてほしいです。勉強が前面に出ると、子どもは本が嫌いになります。願いをすれば、市の図書館でもいい本を紹介してくれます。秋の夜長、お子さんに読み聞かせをして、共にいい時間を過ごしてください。

11月もよろしくお祈りします。

園長 小谷 和弥
職員 一同



療育表



月	火	水	木	金
				1 午前療育 午後療育
4 振替休日	5 午前療育 午後療育	6 午前療育 午後療育	7 午前療育 午後療育	8 午前療育 午後療育
11 午前療育 午後療育	12 午前療育 午後療育	13 午前療育 午後療育	14 職員研修	15 午前療育 午後療育
18 午前療育 午後療育	19 午前療育 午後療育	20 午前療育 午後療育	21 就学説明会 午前療育 午後療育	22 灘先生 午前療育 午後療育
25 午前療育 午後療育	26 午前療育 午後療育	27 午前療育 午後療育	28 午前療育 午後療育	29 午前療育 午後療育

11月の予定

21日(木) 就学説明会(年中児保護者対象)
場所: 舞鶴市中総合会館(3階 301号室)
時間: 10:00~11:30

22日(金) 作業療法士 灘先生来園日

山下浩二臨床発達心理士の相談は随時、受け付けます。

今後の予定

12月2日(月)~6日(金) 母親教室です。
注: [木曜日については、12日に行います]

12月16日(月) 作業療法士 灘先生来園日
12月の療育は、25日(水)まで行います。

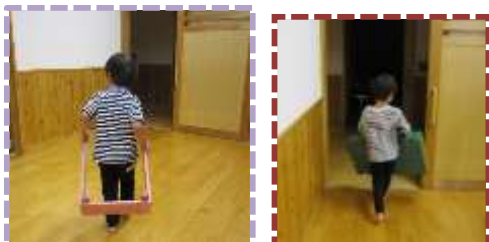
10月のこどもたち

運動会のシーズンも終わり、その体験を経て一人ひとり大きく成長し、おうちのみなさんにもたくさん褒めてもらったことでしょう。

さて、さくらんぼ園では、始まり前の自由遊びも大切な活動の時間としています。遊びが終わり、みんなで遊具の片付けをすることがありますが、巧技台やマットなどを両手で持ち運び、広い空間に設定して次の遊びにつなげています。

こどもたちは一生懸命、「よいしょ、よいしょ。」と重い遊具やグッズを片付けます。『協力して行動すること』を経験し、それができた時はいっぱい褒めてもらい表情も明るくなるこどももいます。

遊びだけでなくお手伝いなどの役割を通して、『自己有能感』が高まるよう関わりながら、支援していきたいと思えます。



さくらんぼ園 主任
佐藤 育代